平成29年度　第3回事業評価監視委員会　事業箇所一覧

資料1

番号	重点	県名	事業名（JCT間）	前回評価年度	車線数	事業延長（km）	開通済み延長の変化（H29.12時点）			事業期間の変化（費用便益分析に用いる便宜的な期間）			事業費の変化（東日本大震災前に開通した区間は含まない）（宮古～盛岡は岩手県の事業区間を含まない）			計画交通量の変化			費用便益比の変化（東日本大震災前に開通した区間の費用・便益を除く）（JCT間全線開通後から便益を計上）					H30年度以降開通予定（H29.12時点）	対応方針（原案）
							今回（H29開通予定含む）（km）	前回（km）	変更内容	今回	前回	変更内容	今回（億円）	前回（億円）	変化要因 ■：被災地特有 ◆：基準の改訂 ○：現場条件の変更等	今回（台/日）	前回（台/日）	変化要因	全体 今回	全体 前回	残事業 今回	残事業 前回	変化要因		
1（資料4）	○	岩手県 宮城県	（復興道路） 三陸沿岸道路 登米～釜石	H28（再評価）	2/2	約111	62.1［+11.3km］	50.8	■南三陸道路 ・南三陸海岸～歌津 4.2km（H29.12.9開通） ■本吉気仙沼道路 7.1km（H29開通予定）	10年（H23～32）	10年（H23～32）	－	4,984［＋５%］	4,762	■労務費高騰等　＋13億円 ■函渠工プレキャスト化　＋50億 ◆PC橋仕様見直し　＋23億 ○トンネル掘削　＋73億 ○切土法面対策　＋25億 ○掘削の岩線変更　＋12億 ○跨道橋の追加　＋20億 ○防災ステーション追加　+6億 計　＋222億円	11,900	11,900	－	1.2	1.2	2.7	2.1	■全体 ・事業費の増加によるB/Cの減少（1.24→1.16） ■残事業 ・投資によるCの減少により、B/Cが増加	■歌津～本吉 ・歌津～卯名沢（10km）H30 ・卯名沢～本吉（2km）H32 ■本吉気仙沼道路Ⅱ期（4km）H30 ■気仙沼～唐桑南 ・気仙沼～気仙沼康（1.7km）H31 ■唐桑北～陸前高田（10km）H30 ■吉浜～釜石（14km）H30	事業継続
2（資料5-1）		岩手県	（復興道路） 三陸沿岸道路 釜石～宮古	H28（再評価）	2/2	約50	31.2［+14km］	17.2	■山田～宮古南 14km（H29.11.19開通）	９年（H23～31）［－１年］	10年（H23～32）	工事進捗を踏まえた事業期間の短縮	1,760［＋１%］	1,740	■労務費高騰等　＋3億円 ■函渠工プレキャスト化　＋2億 ◆PC橋仕様見直し　＋4億 ○トンネル掘削　＋11億円 計　＋20億円	11,800	11,800	－	1.6	1.5	14.5	6.2	■全体 ・事業期間の短縮によるB/Cの増加 ■残事業 ・投資によるCの減少により、B/Cが増加	■釜石山田道路 ・釜石J～釜石両石（5.6km）H30 ・釜石北～大槌（4.8km）H31 ・大槌～山田南（８km）H30	事業継続
3（資料5-2）		青森県 岩手県	（復興道路） 三陸沿岸道路 宮古～八戸	H27（再評価）	2/2	約132	45.4［+10km］	35.4	■宮古中央～田老 ・田老第２IC～田老北IC　4㎞（H29開通予定） ■田老～岩泉　6㎞（H29開通予定）	10年（H23～32）	10年（H23～32）	－	5,679［＋３%］	5,533	■労務費高騰等　＋116億円 ■函渠工プレキャスト化　+15億 ◆PC橋仕様見直し　+5億 ○地すべり災害対策　＋10億円 計　＋146億円	7,300	7,300	－	1.2	1.3	2.7	2.0	■全体 ・事業費の増加によるB/Cの減少 ■残事業 ・投資によるCの減少により、B/Cが増加	■宮古中央～田老 ・宮古中央～田老第2（17km）H32 ■尾肝要～普代（8km）H32 ■久慈北道路（7.4km）H31 ■侍浜～階上（23km）H32	事業継続
4（資料5-3）		岩手県	（復興支援道路） 東北横断自動車道 釜石秋田線 釜石～花巻	H28（再評価）	2/2	約80	62.5	62.5	－	８年（H23～30）	８年（H23～30）	－	1,415［＋５%］	1,354	■労務費高騰等　＋2億 ■函渠工プレキャスト化　＋24億 ◆PC橋仕様見直し　+3億 ○転石破砕　+9億 ○擁壁基礎地盤対策　+17億 ○仮設工法変更　+3億 ○路床改良　+3億 計　+61億円	9,000	9,000	－	1.8	2.0	7.0	4.2	■全体 ・事業費の増加によるB/Cの減少 ■残事業 ・投資によるCの減少により、B/Cが増加	■釜石～釜石西（6km）H30 ■遠野住田～遠野（11km）H30	事業継続
5（資料5-4）		岩手県	（復興支援道路） 宮古盛岡横断道路 宮古～盛岡	H28（再評価）	2/2	約66	10.7	10.7	－	10年（H23～32）	10年（H23～32）	－	2,458［＋９%］	2,248	■労務費高騰等　＋26億円 ■函渠工プレキャスト化　＋3億 ◆PC橋の仕様見直し　＋2億 ○生コンクリート単価変更　+12億 ○トンネル掘削　+167億 計　+210億	5,200	5,200	－	1.03	1.1	2.6	2.1	■全体 ・事業費の増加によるB/Cの減少 ■残事業 ・投資によるCの減少により、B/Cが増加	■宮古～箱石（33km） ・宮古西道路　H32 ・羅目～腹帯　H32 ・下川井地区　H31 ・川井～箱石　H32 ■宮古西道路（3.3km）H30 ※岩手県区間 ■区界～薬川（8km）H32 ■都南川目道路 ・田の沢～手代森（3.4km）H31	事業継続
6（資料5-5）		福島県	（復興支援道路） 東北中央自動車道 相馬～福島	H28（再評価）	2/2	約45	27.5［+17km］	10.5	■阿武隈東～阿武隈 5㎞（H29開通予定） ■霊山道路　12km（H29開通予定）	10年（H23～32）	10年（H23～32）	－	2,065［＋４%］	1,980	■労務費高騰等　＋7億円 ■函渠工プレキャスト化　+3億 ■放射能対策　＋24億 ◆PC橋仕様見直し　＋2億 ○トンネル掘削　+18億 ○黄鉄鉱対策　＋31億 計　+85億円	10,500	10,500	－	1.1	1.1	2.2	2.5	■全体 ・事業費の増加によるB/Cの減少（1.149→1.09） ■残事業 ・開通区間のBが対象外となり、B/Cが減少	■相馬～相馬西（6km）H31 ■霊山～福島 ・霊山～福島保原線（7.4km）　H32 ・国道４号～福島北J（2km）H32	事業継続

※上記６事業の整備効果は「道路事業・街路事業にかかる再評価実施要領細目」第４に基づく効率化判定により、今回評価で作成を省略。

（・判定根拠は資料２参照
・整備効果は前回評価資料に掲載（東北地整ＨＰ事業評価監視委員会　平成27年12月18日･･･宮古～八戸、 平成28年11月1日･･･釜石～宮古・宮古～盛岡・釜石～花巻・相馬～福島、 平成28年11月29日･･･登米～釜石））